

# 近現代の東京都心部における斜面地の変容に関する研究

A study on the transfiguration of the slope area in the modern ages in central Tokyo

2004年3月

松本泰生

MATSUMOTO, Yasuo



< 目次 >

序章 研究の枠組み .....	5
序-1 研究の背景 .....	7
序-2 研究の目的 .....	8
序-3 既往研究の整理 .....	8
序-4 用語の定義 .....	9
序-5 研究の方法 .....	10
序-6 研究対象地域 .....	11
序-7 研究の構成 .....	11
第1章 山の手地域の土地条件 .....	17
1-1 広域的位置付け .....	19
1-2 山の手台地の地形概況 .....	22
1-3 山の手地域における斜面地 .....	31
第2章 都心部山の手地域における斜面地の特質 .....	37
2-1 空間構成要素・土地利用の特色 .....	40
2-2 斜面地の環境特性・空間特性 .....	42
2-3 崖の特性とその分布 .....	46
2-4 階段の分布と規模 .....	56
2-5 斜面樹林の分布と役割 .....	60
2-6 斜面地が抱える問題点 .....	64
2-7 斜面地開発が抱える問題点 .....	65
2-8 まとめ .....	66
第3章 江戸東京の都市形成と斜面地利用及びその景観・役割の変遷 .....	69
3-1 斜面地利用の変遷と崖の形成 .....	72
3-2 都心部山の手地域における階段を含む斜面地景観の変化 .....	77
3-3 斜面樹林の景観変遷 .....	82
3-4 東京都心部の市街地形成における斜面地の役割の変化 .....	84
3-5 まとめ .....	91

第4章 斜面地における宅地建物の空間構造 .....	93
4-1 事例8地区の空間構成 .....	97
4-2 崖によって区分された斜面居住地の特質 .....	130
4-3 まとめ .....	134
第5章 斜面樹林地の可視構造 .....	135
5-1 可視範囲と可視状況 .....	137
5-2 対象と視点の関係 .....	141
5-3 斜面樹林の緑視率 .....	143
5-4 まとめ .....	144
第6章 宅地化に伴う斜面地の空間変化 - 白山地区の場合 .....	147
6-1 土地所有の変遷 .....	150
6-2 空間構成の変遷 .....	159
6-3 斜面地における住宅地空間形成の仕組み .....	168
6-4 まとめ .....	171
第7章 斜面地景観に関する景観行政と課題 .....	173
7-1 東京都都市景観マスタープラン .....	176
7-2 都心部山の手地域の自治体の取り組み .....	181
7-3 まとめ .....	183
第8章 都心部における斜面地の価値と今後の展望 .....	185
8-1 斜面地の居住空間の特質 .....	187
8-2 東京山の手都市空間における斜面地の捉え方 .....	188
8-3 今後の展望 .....	189
終章 各章の要約 .....	191
参考文献・図表一覧 .....	197
参考文献 .....	199
図表一覧 .....	203
研究業績 .....	207
謝辞 .....	210

## 序章 研究の枠組み



## 序-1 研究の背景

東京都心部の山の手地域は、洪積台地に樹枝状の開析谷が数多く刻まれ、複雑で起伏の多い地域となっている。こうした自然地形の上に形成された江戸の都市空間は、封建制のもとで身分の違いにより概ね台地上が武家地、低地部が町人地とされていた。これは台地面・開析谷底・谷壁斜面によって構成される微地形の襞におよそ対応している。

このなかで谷壁斜面は、台地面と開析谷底という二つの領域の間で緩衝帯の役目を果たし、当時の土木技術力の限界と土地所有形態を背景に、緑に被われ都市化は進まなかった。しかし明治期以降の人口増加に伴う都市化の要請はこうしたいわゆる斜面地にも及び、技術の進展の後押しをも受けて宅地化が進行した<sup>1)</sup>。その結果、人工改変度の小さい自然斜面は姿を消し、そのかわりに盛土・切土などによって平坦化された土地と、それらを区切る崖が無数に現れることとなった。現在の山の手地域にみられる斜面地の殆どは、こうして人の手が加わったものであるが、この人工地形はその下地である自然地形と無関係ではないと考えられる。

地域のもつ自然的環境や歴史的文脈を視野に入れたまちづくりの重要性に対する認識は一般化しているが、一方で戦後五十年以上が経ち、斜面地に存在している建築物の多くが老朽化するに伴い、地形の改変を含んだ大規模な再開発が都心部で展開されているのも事実である。数件の戸建て住宅を統合して、マンション化する事例は更に多く、これに際しての地形改変は当然、相当数に上る。これら新規の建築物は、往々にして人工地盤もしくはそれに類する基礎部分を持ち、それらは既存の微少な地形を凌駕するスケールのもとなっている。従って、江戸期以来の微地形を反映して造られている住宅地は、次第に減少している。これは同時に、微地形に沿うように見えていた家並み景観の減少、喪失をも意味している。

近代以降の斜面地を特色づけるものとしては、崖（擁壁）、階段、樹林が挙げられる。崖は、宅地化の過程で、盛土や切土によって平坦化された土地の出現の一方で現れた、構成要素である。また階段は、宅地化の過程で作られた無数の細街路上に構築され、以降の道路舗装により明瞭な景観構成要素となったものである。そして樹林地は、明治以降急速に失われ、現在では希少なものとなり、変化の激しかった要素である。

斜面地地区内に存在する道路網の多くは坂道、階段となっている。中でも階段は台地上と低地という二つの異なる領域間を明確につなぐ特異な装置として考え得るものである。歩行が主であった江戸期以降、都心部山の手の斜面地には多くの階段が作られてきた。しかしこの階段も私道、細街路に位置することが多く、崖同様近年の開発、戸建て住宅の集約建て替えに伴い、自然地形に近い斜面上に位置する階段は減少傾向にある。

江戸名所図会や明治初期に撮られた古写真からも判るように、江戸期の斜面地の大半は、緑地（樹林地）であったと想像される。しかし現在、斜面地には部分的にしか樹林地は残されていない。また、中高層建物が林立するようになった近年は、わずかに残されたこれらの樹林地までもが、街並みの中で埋没してしまい、不可視化する傾向にある。斜面地にあった樹林の減少と、その不可視化は、私達の認識における位置づけの相対的低下をも想像させる。一方で、残された樹林地の希少性は高まり、相対的にその景観の価値は増しているとも考えられる。

このような状況のなかで、人工地形である崖（擁壁）や階段を、山の手地域の歩んだ近代化の過程における空間変容の顕著な一現象として捉え、その現況と空間的特質を、土地条件との関連性の中から明らかにすることは、今後さらに求められるであろう地域の文脈を生かしたまちづくりや景観形成にも一つの示唆を与えるものと思われる。

## 序-2 研究の目的

以上のような背景を受けて、本研究では東京都心部山の手地域の斜面地を特徴づけるファクターとして、崖（擁壁）階段、斜面樹林に着目し、これを中心として斜面地の居住空間の現在の様相と課題を捉えるとともに、近代以降の宅地化の過程において、斜面地の空間構成とその位置づけがどのように変容してきたのかを明らかにすることを目的とする。そして現在・過去から斜面地の居住空間を俯瞰し、その特質と価値に関して考察を行う。更に地域の文脈を生かした今後の地域計画へ向けて、東京山の手の斜面地の捉え方について言及する。

## 序-3 既往研究の整理

本研究が関連する研究分野としては、江戸・東京学とも呼ばれる、東京都心部の都市形成、人文地理学的立場がある。この分野では横<sup>序-1</sup>、陣内<sup>序-2</sup>らによる一連の著書、論説が代表的である。

景観、景観構造に関しては、樋口<sup>序-3</sup>、後藤<sup>序-4-5</sup>らの著書、研究がある。宅地の形成、細分化、所有の変化については材野<sup>序-6</sup>、加藤<sup>序-7</sup>、野村<sup>序-8</sup>らの著書、論文、また住宅地での生活行動については鈴木<sup>序-9</sup>、等がそれぞれ代表的である。また本研究でも扱っている路地空間については森まゆみらによる著書<sup>序-10</sup>がある。

斜面地に関する研究は、地形による都市形成への影響に関する研究<sup>序-11-12</sup>、眺望等景観に関する研究<sup>序-13-17</sup>、空間構成に関する研究<sup>序-18-20</sup>、斜面住宅に関する研究<sup>序-21</sup>、崖崩れ、風等、環境に関する研究<sup>序-22</sup>に大別できる。では例えば、畑中は市街化拡大と地形との関わりを模型を用いて三次元的に明らかにする手法を用いている。では例えば、千葉は日暮里富士見坂から富士山への眺望景に関して地形と土地利用との関わりを明らかにしている。では例えば、福田は漁師町地区の家屋位置、出口の方向、海側の間口/奥行きと地形、道路との関係を明らかにしている。またで、小林は地形と建物の関係を斜面と住宅の取り付き、斜面と外部空間、斜面と戸外のたまり場空間に注目している。では、山本は沖縄県の本島中部地域の地形や地質を詳細に把握し組積造建築物の研究の基礎的情報としている。

都心に位置する坂については、古くは横関<sup>序-23-24</sup>の著書があり、石川<sup>序-25</sup>や三船<sup>序-26-27</sup>による坂道を網羅した著書も存在する。一方、阪神間の郊外住宅地の擁壁については三宅による調査<sup>序-28-30</sup>が、また斜面地の防災・福祉面については長崎での調査研究<sup>序-31</sup>がある。

また斜面樹林、緑化に関する研究は、緑地変遷<sup>序-32</sup>、斜面緑地の保全<sup>序-33-34</sup>、法面緑化に関する研究<sup>序-35-36</sup>に大別できる。で、田畑は江戸と明治の緑被地抽出図を作成し、江戸から明治に移行する段階の緑被地の変化を明らかにしている。では例えば、金子が市街地内斜面緑



地の保全手法の問題点と今後のあり方を物的な状況と土地制度的な状況から分析している。では例えば、勝野が緑化後管理されていない法面の植生調査法を具体的に明らかにし、その方法を用いて法面の植生の遷移段階を明らかにしている。

しかし、斜面樹林を対象に景観の視点から捉えた研究はわずかであり<sup>序-37</sup>、また景観分析、予測、評価に関する研究は多くなされているが、地形条件を含めた景観の研究は数少ない。また本研究で扱う、東京都心部の崖（擁壁）や階段、斜面樹林の分布や現況、またそれらの変遷を扱ったものは、松本らによる調査<sup>序-38-46</sup>以外にはない状況である。

#### 序-4 用語の定義

以下に本稿で用いる斜面地、斜面居住地、斜面樹林、崖、微地形という用語について定義する。

##### 斜面地

本研究では河川によって浸食された谷の底部と台地という二つの領域の中間に存在する斜面と、その周辺空間を斜面地とする。概して、25～30%の勾配を持つ斜面で、都心部においてはその高低差は10～20m程度である。一般的にもこのような空間が、山の手地域においては斜面地として認識されている。1-3においては土地条件図を利用し、この図で用いられている区分を基に斜面地を定義し、斜面地の抽出した（1-3に詳述）。

##### 崖（擁壁）

広義には、「ある程度の比高を有する2つの地形面を接続する（あるいは境する）斜面地で、しかも切り立てたような極めて急な勾配を持つ斜面」である。一方、都市内において「崖」というとき、それは市街地に見られるコンクリートや自然石等で被覆された「擁壁」を指すことが多い。擁壁は近代以降の山の手地域の斜面地を構成する象徴的空間要素である。そこで本稿では『自然地形との関連性を有する、人工的に改変された擁壁及び土堤』を狭義の崖と定義し、主にこの崖を対象として調査分析を行った。本研究で調査対象とする崖の抽出法については、2-3で詳述する。

##### 斜面居住地

東京都心部山の手地域の斜面地上に形成された住宅市街地を指す。

##### 斜面樹林

本研究においては、斜面地に残存する樹林地を斜面樹林と定義する。

##### 微地形

「規模（起伏・広がり）の微小な地形。人間の観察の範囲には、十分入るが、普通の地形図では十分に表現されない程度の小さい地形。比高 $10^{-2}$ ～ $10^2$ m、幅・長さ $10^{-1}$ ～ $10^3$ m程度の地形」（地理学事典<sup>序-47</sup>）であり、その語が示す空間的領域は広い。そこで本稿では、上記の範囲内で、人

間が日常生活を営む上で住環境に少なからず影響を与えるものであり、なおかつ開発・建設行為に際して人の手が加えられることにより、容易にその性質が変化してしまうスケールのものを指すこととする。

## 序-5 研究の方法

本研究は主にフィールド調査及び文献調査に基づく。

近現代の東京都心部における斜面地の変容について把握しようとする際には、まず東京都心部山の手地域が含まれる東京都全域の地勢の状況把握が必要となる。そこで本研究では、まず第1章において、東京の山の手地域の地理条件を文献調査によって概観した上で、対象地域である都心部山の手地域の調査を行うこととする。

本研究の調査は対象地域の範囲によっておよそ二つに大別される。一つは都心部山の手地域に対する調査であり、他方は事例地区に対する調査である。前者は都心部山の手地域の斜面地の特性を全般的に把握し、そこに共通する傾向と、地域的な特色を読み解こうとするものである。また後者は前者の山の手地域の中から特色のある地区を適宜選び出し詳細に調査するもので、フィールド調査を交えて個別に景観現況、変容の実態、変容の仕組みを明らかにしようとするものである。

そしてこの後者の具体的調査の結果を、行政の取り組みの状況などとも併せながら、先に述べた都心部山の手地域全域に共通する事柄であることとして普遍化することで、山の手地域全域に対して提言を行う礎とする。

### < 都心部山の手地域に対する調査 >

- ・斜面地の特性、都市における役割・課題を、フィールド調査、文献調査（行政資料の整理等）行政、民間の取り組みに関するヒアリングによって明らかにする。
- ・絵図、地図、古写真等の文献によって、斜面地の歴史的変遷を把握する。文献としては主に、江戸名所図会<sup>序-48</sup>、1/5,000地形図<sup>序-49</sup>、1/10,000地形図<sup>序-50</sup>（明治～現在）等を使用する。
- ・崖、階段、斜面樹林の分布については、1/10,000地形図<sup>序-50</sup>、1/2,500都市計画図<sup>序-51</sup>、1/1,500住宅地図<sup>序-52</sup>、各区発行の樹林地図等を用いて、それぞれを抽出し、フィールド調査によって現況を確認する。

### < 事例地区に対する調査 >

- ・崖を含み多様な敷地形態が見られる地区を8地区選定し、主にフィールド調査により、空間現況を把握する。これを踏まえて、類型化を行い、崖によって区分された宅地の空間特質を明らかにする。
- ・都心部の斜面樹林を対象として、地形条件に着目し景観構造を明らかにする。斜面樹林を含む樹林地を事例として、フィールド調査より緑地状況、街路可視範囲、対象と視点場の関係を把握する。調査結果をもとに、可視範囲に関わる要素の抽出、対象と視点の関係の類型化、緑視率に

影響する要素の抽出を行い、斜面樹林の景観構造を把握する。調査結果の分析、景観行政をふまえて、斜面樹林の視覚的有効性について検討する。

・白山地区を対象にして、土地所有の変遷及び土地利用の変遷を詳細に明らかにする。土地所有の変遷調査にあたっては、史料（江戸情報地図、参謀本部測量局五千分一東京図（明治16・17年測量）、明治・大正・昭和東京一万分一地形図集成、戦前・戦後火災保険特殊地図<sup>序-53-54</sup>）、古住宅地図、東京市及接続郡部地籍台帳・地籍地図（明治45年発行）<sup>序-55</sup>）、東京市土地台帳・地籍図（昭和6～8年発行）<sup>序-56</sup>）等を用い、戦前期までの土地所有の変遷から空間の特質を明らかにする。

## 序-6 研究対象地域

本研究においては、調査研究の対象地域をそれぞれ以下の範囲とした。

都心部の山の手地域（崖・階段・斜面樹林の分布、斜面地利用と景観の変遷（第2章、第3章））

崖、階段の分布については、早くから市街化が進行した東京旧15区内の山手部分とし、JR山手線の内側の地域が概ねこれに相当するため、この山手線内を対象地域とした。行政区では、千代田区、港区、新宿区（旧四谷区・旧戸塚区にあたる地区）、文京区、渋谷区の一部、豊島区の一部が該当する。

崖により特徴づけられる空間（事例調査（第4章））

上記の山の手地域内の斜面地において、特に崖が多く分布し地形的特色があり、多様な居住地形態が確認できる地区として、8地区（港区六本木6丁目、新宿区住吉町、新宿区市谷柳町、文京区白山2丁目、文京区本郷4丁目、品川区北品川6丁目、豊島区高田1丁目、豊島区雑司が谷1丁目）を選出し、フィールド調査により空間の現況を把握した。

斜面樹林の可視状況（事例調査（第5章））

事例地区は残存する斜面樹林地から地形の特徴に着目して選定を行い、上野公園（台東区）、江戸川公園（文京区）、小石川植物園（文京区）、外濠公園（千代田区）、日枝神社（千代田区）、青山霊園（港区）、有栖川宮記念公園（港区）、自然教育園（港区）、清泉女子大学（品川区）、高輪2丁目（港区）を取り上げる。

宅地化に伴う斜面地の空間変化（事例調査（第6章））

第4章で調査した8地区の中で、白山地区について年代を追って空間変化を把握した。

## 序-7 研究の構成

本研究は、序章、本論（1～8章）、終章からなる。各章の概要は以下の通りである。

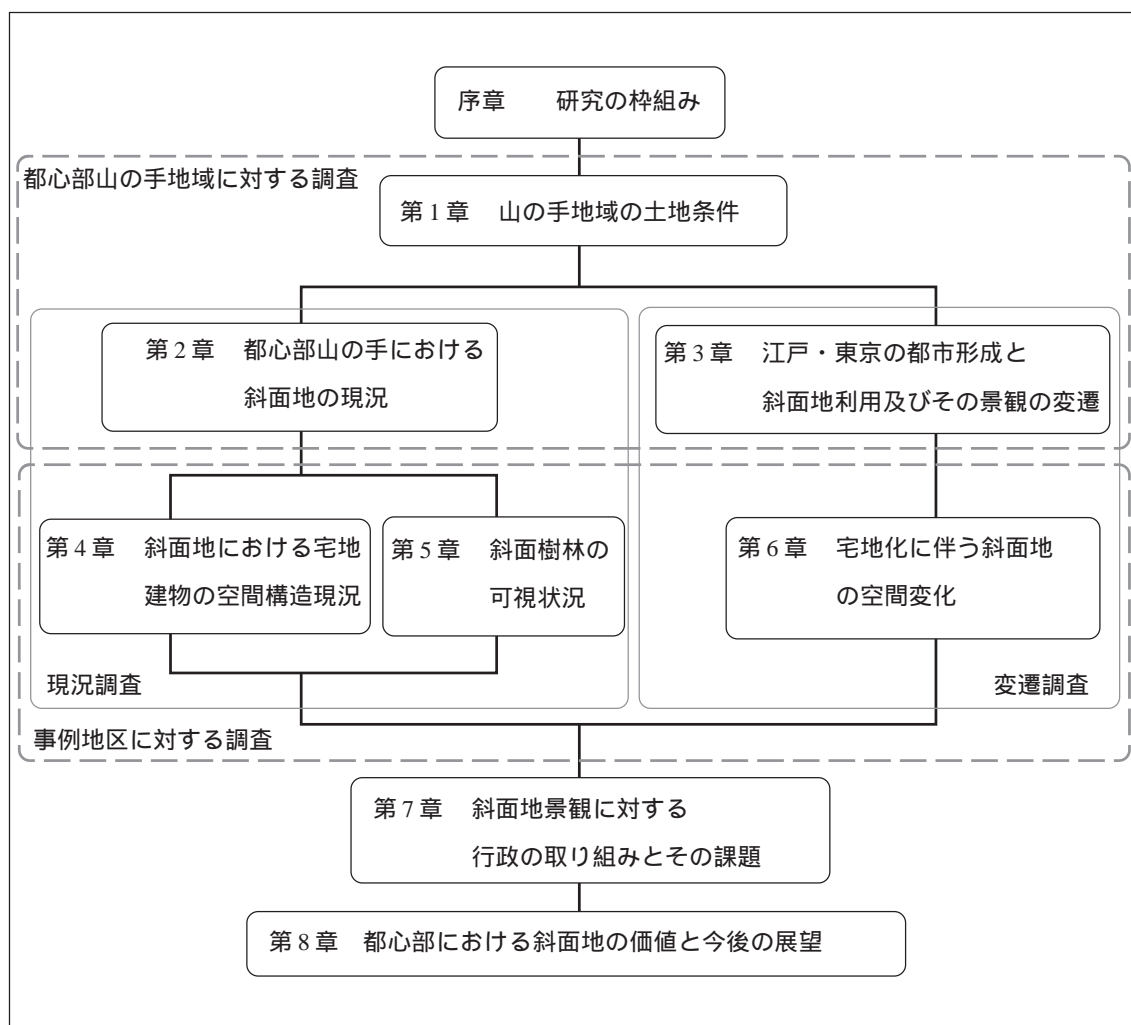
序章では、研究の枠組みとして、研究の背景、目的、既往研究との関連、用語の定義、研究の

方法・構成について述べる。

第1章から第3章は東京都心部山の手地域全域に対する調査であり、この調査を通して都心部山の手地域に共通する地理的特色、及び地域性を持つ事項、変容の全体的傾向、斜面地が果たす役割について触れていく。

第1章「山の手地域の土地条件」では、本研究の前提でもある斜面地について、広域的な側面から状況整理を行い、研究対象である斜面地の範囲を定義すべく、地理・地形学分野の文献から、東京山の手の都市空間の基底条件である地形・地質の把握を行う。

第2章「都心部山の手地域における斜面地の現況」では、崖、階段、斜面樹林という景観構成要素に着目し、これらの分布状況を把握する。この内、崖及び階段の調査にあたっては、JR山手線内の崖（擁壁及び土堤）、階段の抽出を行い、分布を把握するとともに、フィールド調査により用途・形態現況を明らかにする。また斜面樹林の調査では、同じく山手線内の斜面樹林を抽出し、それらが果たす役割について明らかにする。そしてこれらの調査を通じて、山の手の地理的特性とこれらの要素の間の相関をとらえ、原地形が現在の景観に与える影響を広域的に明らか



図序-1 本研究のフローチャート

にする。

第3章「江戸東京の都市形成と斜面地利用及びその景観・役割の変遷」では、江戸期から現在に至る都市形成の過程で斜面地の土地利用がどのように移り変わってきたか、またそれに伴い景観がどのように変化し、都市の中で斜面地の位置づけがどのように変化してきたかを明らかにする。調査に際しては、東京の宅地形成の歴史に関する文献及び古地図を用いる。そしてこの調査を通じて、現在の都市において斜面地が果たすべき役割について検討を加える。

第4章から第6章は事例地区に対する調査であり、この調査を通して全域の調査では把握しきれない、詳細な地区特性、変容の状況を把握し、現況の典型的特色及び、変容の仕組みを明らかにする。これは第1章から第3章の都心部山の手地域全域に対する広範な調査と併せて、相互に補完するものであり、事例地区における調査結果を全域に対しても展開することを企図したものである。

第4章「斜面地における宅地建物の空間構造現況」では、崖が多く分布し、地形的特色があり、多様な居住地形態が確認できる地区として8地区を選出し、1/2,500地形図及びフィールド調査によって、空間構成(地形、崖分布及び高さ、道路幅員)の特徴を捉えるとともに、崖が居住空間に与える影響について多角的に検証する。この調査を通して、原地形が現在の斜面地の宅地及びその景観に影響を与えていることを詳細に明らかにする。

第5章「事例地区における斜面樹林の可視現況」では、5箇所の斜面樹林を対象にフィールド調査を行い、斜面樹林の道路上からの可視範囲、可視の種類、緑視率を明らかにし、緑視の有効性について検証する。その中で、斜面樹林の景観は現在かなり希少なものとなっていること、しかしそれは重要なものであり、対応策が模索されるべきであることを明らかにする。

第6章「宅地化に伴う斜面地の空間形成」では、白山地区を事例として、史料から土地所有及び空間の変容過程を辿り、現在・過去の両側面から斜面地における居住空間の特質を探る。この調査を通じて、土地所有や各時代の土地利用が、現在の斜面地の土地利用及び宅地形成に多大な影響を及ぼしていることを明らかにし、今後の計画に際して、歴史的文脈の検討が重要であることを明らかにする。

なお2～6章までのうち、2、4、5章は現況に関する調査、3、6章は変容に関する歴史的調査である。

第7章「斜面地景観に対する行政の取り組み」では、「東京都景観マスタープラン」に基づく取り組みと、港区、文京区の斜面地景観に対する取り組みについて整理、把握する。この調査により、第1章から第6章までで得られた知見を今後にかつす方法について、検討を加えることができると思われる。

第8章では、1～3章の都心部山の手地域全域に対する調査、4～6章の事例地区調査、7章の行政の取り組みを踏まえて、斜面地空間の特質・価値と、今後の都心部山の手地域における斜面地の捉え方について言及する。

終章は各章の要約である。

## 序章補注

- 序-1) 榎文彦 他「見えがくれする都市」, 鹿島出版会 SD 選書, 1980
- 序-2) 陣内秀信「東京の空間人類学」, 筑摩書房, 1985
- 序-3) 樋口忠彦「景観の構造」, 技報堂出版, 1975
- 序-4) 後藤春彦「都市デザインのための都市景域設定に関する研究」, 早稲田大学博士論文, 1986
- 序-5) 後藤春彦「東京旧15区における土地条件に着目した景観単位の設定」, 日本建築学会計画系論文集, No.370, 1986.12
- 序-6) 材野博司「都市の街割」, 鹿島出版会 SD 選書, 1989
- 序-7) 加藤仁美「明治期の大名屋敷跡地における住宅地開発について - 麻布霞町の場合 - 」, 日本都市計画学会学術研究論文集, Vol.26, pp.13-18, 1991
- 序-8) 野村悦子「明治45年の地籍台帳の分析による宅地所有形態の類型化」, 日本建築学会計画系論文集, No.504, pp.163-170, 1998.2
- 序-9) 鈴木成文「『いえ』と『まち』 - 住居集合の論理」, 鹿島出版会 SD 選書, 1984
- 序-10) 上野・谷根千研究会「新編・谷根千路地事典」, 住まいの図書館出版局, 1995
- 序-11) 畑中隆志・三浦昌生「地形模型による埼玉県の地形と人口集中地区の広がり」, 日本建築学会大会学術講演梗概集, D-1 分冊, pp.975-976, 1998
- 序-12) 中崎一巳・土井幸平「土地条件からみた神戸市の市街地形成に関する研究」, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp.673-674, 1997
- 序-13) 菊地牧子・千葉一輝・川本哲也・戸沼幸市「東京の眺望に関する研究 その5 都心部における富士見坂の現況」, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp.231-232, 1997
- 序-14) 千葉一輝・菊地牧子・川本哲也・戸沼幸市「東京の眺望に関する研究 その6 地形及び土地利用から見た日暮里富士見坂の眺望」, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp.233-234, 1997
- 序-15) 千葉一輝「江戸・東京における眺望の変容に関する研究」, 日本建築学会計画系論文集, No.481, pp.157-166, 1996.3
- 序-16) 三瓶大介・小柳武和・志摩邦雄「市民意識と地形空間に着目した景観解析」, 日本都市計画学会学術研究論文集, No.32, pp.337-342, 1997
- 序-17) 斉藤 潮・八島久子「19世紀江戸のランドマーク体験に関する研究」, 日本都市計画学会学術研究論文集, No.22, pp.307-312, 1987
- 序-18) 三島伸雄・福田英二・宮下俊彦「漁師町地区における家屋の平面構成パターン 玄界灘に面する呼子町の空間構造に関する研究(その1)」, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp.683-684, 1999
- 序-19) 福田英二・宮下俊彦・三島伸雄「漁師町地区における家屋と地形・道路との関係 玄界灘に面する呼子町の空間構成に関する研究(その2)」, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp.685-686, 1999
- 序-20) 笠原卓・後藤春彦「斜面地における集落の構成原理 ~ 山梨県勝沼町菱山地区を事例として ~ 」, 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-2 分冊, pp.509-510, 1997
- 序-21) 小林拓人・荒船忠之「傾斜地に建つ集合住宅の研究 ~ 地形と建物の関係 ~ 」, 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-2 分冊, pp.351-352, 1999
- 序-22) 山本俊雄・加藤一雄・松村晃・加村隆志「沖縄地方組積造建築物に関する調査学術研究 その8 中部地域の地形・地質の概要」, 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-2 分冊, pp.993-994, 1996
- 序-23) 横関英一「江戸の坂東京の坂」, 中公文庫, 1981
- 序-24) 横関英一「続 江戸の坂東京の坂」, 中公文庫, 1982
- 序-25) 石川悌二「江戸東京坂道事典」, 新人物往来社, 1998
- 序-26) 歴史・文化のまちづくり研究会 編・三船康道 監修「歩いてみたい東京の坂. 上」, 地人書館, 1998.12
- 序-27) 歴史・文化のまちづくり研究会 編・三船康道 監修「歩いてみたい東京の坂. 下」, 地人書館, 1999.1
- 序-28) 三宅正弘「芦屋市の山麓住宅地における地場の石垣景観」, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp.805-806, 1996

- 序-29) 三宅正弘「御影石と郊外住宅地開発 阪神間・六甲山麓住宅地の地場石材による石垣景観に関する研究」, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp.545-546, 1997
- 序-30) 三宅正弘「山麓斜面住宅地における開発タイプ別の環境 阪神間・六甲山麓部における住宅地を事例に」, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp.723-724, 1998
- 序-31) 国際斜面都市会議 編「国際斜面都市会議論文集」, 長崎市都市計画課, 1990
- 序-32) 田畑貞寿・五十嵐政郎・白子由起子「緑被地からみた江戸と東京の都市構造に関する研究」, 造園雑誌 Vol.47, No.5, pp.298-303, 1984
- 序-33) 金子忠一「市街地内斜面緑地の保全に関する研究」, 造園雑誌 Vol.52, No.5, pp.294-299, 1989
- 序-34) 奥水肇・武内和彦・位寄和久・安立 植「樹木活力度を指標とした多摩丘陵の土地自然特性と開発インパクトの総合評価」, 造園雑誌 Vol.50, No.5, pp.131-136, 1987
- 序-35) 村田 孝「高蔵寺地区法面保護緑化」, 造園雑誌 Vol.30, No.1, pp.25-33, 1966
- 序-36) 勝野武彦「道路のり面植生の遷移と管理について」, 造園雑誌 Vol.45, No.1, pp.34-37, 1981
- 序-37) 眺望やランドマークに関する研究(文 13-17)の中で、斜面樹林は視対象の一つとして取り上げられている。
- 序-38) 松本泰生・松尾 環・戸沼幸市「東京の微地形に関する研究 その3: 崖によって区分された斜面居住地の特質」, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp.725-726, 1998
- 序-39) 松本泰生・徳田賢太郎・戸沼幸市「東京の階段に関する研究 都心部における階段の分布状況」, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp.699-700, 1996
- 序-40) 松尾環・山崎壮一・徳田賢太郎・松本泰生・戸沼幸市「東京の微地形に関する研究 その1: 階段を有する斜面居住地の街路の特性」, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp.317-318, 1997
- 序-41) 山崎壮一・松尾 環・徳田賢太郎・松本泰生・戸沼幸市「東京の微地形に関する研究 その2: 階段によって区分された居住空間の特性」, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp.319-320, 1997
- 序-42) 松本泰生・徳田賢太郎・佐藤洋一・戸沼幸市「東京の階段に関する研究 その2: 形態に関わる要素」, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp.51-52, 1997
- 序-43) 松本泰生・松尾 環・戸沼幸市「東京の微地形に関する研究 その5: 斜面地における空間形成の仕組み」, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp.309-310, 1999
- 序-44) 松本泰生・戸沼幸市「東京の階段に関する研究 その3: 都心部における階段景観の変化」, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp.881-882, 2000
- 序-45) 松本泰生・戸沼幸市「東京都心部における斜面地の現況と特質 - 崖と階段の分布及び斜面地の空間類型 -」, 日本建築学会計画系論文集 No.573, pp.109-115, 2003.11,
- 序-46) 松本泰生・戸沼幸市「東京都心部における斜面地景観の変容 - 江戸東京の土地利用の変遷とその景観変化 -」, 日本建築学会計画系論文集 No.577, pp.119-126, 2004.3,
- 序-47) 藤岡謙二郎 編「最新地理学辞典 - 新訂版 -」, 大明堂, 1979
- 序-48) 鈴木棠三 朝倉治彦校注「新版 江戸名所図会 上巻」, 角川書店, 1975
- 序-49) 「測量局五千分巻東京図」, 内務省測量局, 1884
- 序-50) 「1/10,000地形図「赤羽」「池袋」「新宿」「渋谷」「品川」「西新井」「上野」「日本橋」「新橋」」, 国土地理院, 1993.
- 序-51) 「東京都都市計画図(1/2,500)「大塚」「高田馬場」「江戸川橋」「小石川」「市ヶ谷駐屯地」「神田」「白金」「高輪」」, 東京都都市計画局, 2000
- 序-52) 「ゼンリン住宅地図「千代田区」「港区」「新宿区」「文京区」「台東区」「品川区」「渋谷区」「豊島区」「北区」「荒川区」」, ゼンリン, 2000
- 序-53) 「火災保険特殊地図」, (株)都市製図社、1937
- 序-54) 「火災保険特殊地図」, (株)都市製図社、1953
- 序-55) 「東京市及接続郡部 地籍臺帳・地籍地図」, 東京市区調査会刊, 1912
- 序-56) 「東京市土地台帳・地籍図」, 内山模型製図社, 1931 ~ 1933

